【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成17年5月26日(2005.5.26)

【公開番号】特開2001-179136(P2001-179136A)
【公開日】平成13年7月3日(2001.7.3)
【出願番号】特願平11-369127
【国際特許分類第７版】
　Ｂ０５Ｂ　 1/14
　Ｆ０２Ｍ　61/18
【ＦＩ】
　Ｂ０５Ｂ　 1/14　　Ｚ
　Ｆ０２Ｍ　61/18　　３４０Ｄ
　Ｆ０２Ｍ　61/18　　３６０Ｄ

【手続補正書】
【提出日】平成16年8月3日(2004.8.3)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
　【発明の実施の形態】
　以下、この発明の実施形態を図に基づいて説明する。
　図１はオリフィスプレートを製造する型の斜視図である。
　図１において、１１は型を示し、弾性体、例えばエラストマ系樹脂で作製され、一主表面１２ａに一定の深さ、例えば０．１ｍｍ～０．５ｍｍで円形の凹部１３が設けられ、この凹部１３の周縁に異なる間隔で内側へ突出する異形の突部１４，１５が設けられた基板部１２と、この基板部１２に設けられた凹部１３内の一主表面１２ａに一体的に設けられ、オリフィスを形成する円柱状の複数の突起１６とで構成されている。
　なお、複数の突起１６は、基板部１２の他主表面１２ｂ側の一点を中心として放射状となるように配設されている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
　次に、図１に示した型を使用してオリフィスプレートを製造するこの発明の第２実施形態を、図２を参照しながら説明する。
　まず、図２（ａ）に示すように、型１１を弾性体（エラストマ系樹脂）で作製する。
　なお、各突起１６は、第１実施形態で説明したように、凹部１３内の一主表面１２に設けられている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】

このようにメッキ層２２を成長させると、突起１６の外表面にも下地メッキ層２１が設けられているので、突起１６の部分にもメッキ層２２が成長し、突起１６の部分が一段と高くなったプレート２３となる。

そして、型１１が弾性体で構成されているので、突起１６自身の弾性を利用して突起１６をプレート２３から抜き出すことにより、型２２とプレート２３とを分離する。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】

そして、活性化処理する下地メッキ層２１をパラジウムとしたが、白金族などの錯体構造を有する金属であってもよい。

さらに、メッキ層２２をニッケルとしたが、下地メッキ層２１の上にメッキすることができる金属であれば他の金属、例えばニッケル－リン、ニッケル－ホウ素、ニッケル－鉄、ニッケル－タングステン、ニッケル－マンガンなどの２元合金、複数組成合金など、オリフィスプレートの用途に合わせた単一金属若しくは合金であってもよい。